

<巻頭言>

女性の健康 —ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり—

富尾 淳

国立保健医療科学院防災・公衆衛生レジリエンス研究センター

Women's Health from a Life-Course Perspective

TOMIO Jun

Center for Public Health Resilience, National Institute of Public Health

女性は、月経、妊娠・出産、更年期などに伴う生物学的変化に加え、生活環境や社会的役割の影響も受け、ライフステージや個々の状況に応じて異なる健康課題に直面する。近年は、生活様式の多様化、少子高齢化の進展、女性の就業拡大などを背景に、その生涯を通じた健康支援の重要性が、政策上も広く認識されるようになった。健康日本21(第三次)においても、「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」の一領域として「女性」が新たに項目立てされ、若年女性のやせの減少や骨粗鬆症検診受診率の向上など、具体的な数値目標が設定されている。

こうした目標の達成に向けて、「女性の健康週間」や情報提供サイト「女性の健康推進室ヘルスケアラボ」による情報発信、官民が連携した普及啓発の取組も進められている。さらに、2024年10月には国立成育医療研究センターに「女性の健康総合センター」が開所した。2025年12月には「攻めの予防医療に向けた性差に由来するヘルスケアに関する副大臣等会議」が設置され、2026年5月には同会議において「性差に由来する健康課題等への対応を推進するための論点整理」が取りまとめられるなど、研究、医療、普及啓発、府省横断的な政策調整の各面で取組が展開されている。

このような背景を受け、本特集は、「女性の健康」をめぐる現代的な課題と、それに関わる政策・研究・実践の動向を幅広く紹介することを目的として企画した。まず、女性の健康に関する国の政策の全体像を示す。続いて、女性の健康課題に関わる医学的メカニズムを整理するとともに、エビデンスに基づく政策形成(EBPM)を支える基盤整備の動きを概観する。さらに、女性の健康寿命の延伸を重点課題に掲げる地方自治体の施策、健康経営の枠組みを活用した職域での取組、災害や感染症の流行などの健康危機における女性の健康課題と対策など、幅広い分野からの解説・報告を収載した。いずれも、それぞれの専門的・実践的視点から、女性の健康をめぐる取組の現在地と今後の方向性を示すものである。

各稿に共通するのは、ライフステージや個々の状況に応じた切れ目のない支援と、多様な関係機関の連携という視点である。あわせて、家庭や学校、職場、地域社会において女性の健康課題への理解が広がることも、支援を実効性のあるものとする上で欠かせない。女性が生涯を通じて健康で、自分らしく暮らせる社会の実現に向けて、本特集が読者の実践の一助となれば幸いである。